

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地						
中日本航空専門学校		昭和57年4月1日		中村 寿志		〒 501-3924 (住所) 岐阜県関市迫間字吉田洞1577-5 (電話) 0575-24-2521						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地						
学校法人神野学園		昭和40年2月18日		山田 弘幸		〒 460-0001 (住所) 名古屋市中区泉1丁目23番37号 (電話) 052-971-6161						
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程		航空整備科 航空電子コース		平成22(2010)年度		-		平成27(2015)年度			
学科の目的		航空機等のコンピュータを中心とする電子制御システムや電子装備品等の製作・修理・整備の技術者を養成										
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格 等)		航空特殊無線技士、第2級陸上無線技士、有機溶剤作業主任者、情報活用検定、ITパスポート、デジタル技術検定、技能検定機械保全(電気系保全作業)、技能検定電気機器組立(シーケンス制御作業)、航空無線通信士、DRC協会技能証明、実用英語技能検定、TOEIC										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数			講義	演習	実習	実験	実技			
3 年	昼間	2,413 時間			1,657 時間	0 時間	1,196 時間	0 時間	0 時間			
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率		※同コースは2025年3月に廃止予定。(現在、3年次学生のみ在籍)		
50×3=150 人		17 人		3 人		18%		3 %				
就職等の状況		■卒業者数(C)		28		人						
		■就職希望者数(D)		28		人						
		■就職者数(E)		28		人						
		■地元就職者数(F)		0		人						
		■就職率(E/D)		100		%						
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0		%						
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100		%						
		■進学者数		0		人						
		■その他										
		(令和 5 年度卒業者に關する令和6年5月1日時点の情報)										
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価:				無						
		※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL										
当該学科のホームページURL		https://www.cna.ac.jp/department/robotics/										
企業等と連携した実習等の実施状況		(A: 時間による算定)										
		総授業時数						2,853 時間				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数						60 時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数						0 時間				
		うち必修授業時数						2,413 時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数						48 時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数						0 時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)						0 時間				
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)						21 人				
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)						5 人				
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)						0 人				
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)						0 人				
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)						0 人				
		計						26 人				
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						7 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)に活かす。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け			
企業関係者などの外部委員と中日本航空専門学校で意見交換を行い、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
令和6年5月1日現在			
名 前	所 属	任期	種別
吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	①
小嶺 茂也	朝日航洋株式会社 西日本航空支社 整備部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
加古 太一	三菱重工業株式会社 HRマネジメント部 名古屋HRビジネスパートナーグループ 主任	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
直川 秀雄	三菱電機システムサービス株式会社 産業システムセンター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
岡本 真治	ANA中部空港株式会社 総務部 人事課 課長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	③
中村 寿志	中日本航空専門学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
花田 正樹	中日本航空専門学校 副校長、就職キャリア支援センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
浅井 隆司	中日本航空専門学校 副校長、エアロスペース科・航空生産科学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
加藤 伸幸	中日本航空専門学校 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
大村 聖彦	中日本航空専門学校 学生部 部長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
杉原 秀則	中日本航空専門学校 航空整備科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
田中 希代子	中日本航空専門学校 エアポートサービス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
梶田 和彦	中日本航空専門学校 航空ロボティクス科 学科長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
中島 圭一	中日本航空専門学校 国際交流センター長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	—
※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
(開催時期) ※年2回開催			
(開催日時(実績))			
令和5年度 第1回令和5年7月19日、第2回令和5年12月5日			
令和6年度 第1回令和6年7月17日、第2回令和6年12月3日			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
本校で策定した教育課程について各委員の意見、見識を伺い、授業や今後の教育課程の編成に反映させている。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
教育内容に関するノウハウや最新技術の情報、技術指導などを受けることができる企業と連携して実践的な実習・演習等の授業を行う。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容			
関連業務に携わる技術者の方に教官として来ていただき、実習を行っている。			
(3)具体的な連携の例			
科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連 携 企 業 等
電子機器CAD実習Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	近年、設計製造企業では3次元CADを用いて、設計業務や生産技術業務を遂行できる人材が求められている。よって、現在生産・加工現場で主流となっている3次元設計に取り組み企業の実務に対応できる3次元CADを用いた設計能力を習得する。	株式会社テクノインパルス
電子機器組み立て	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	国家技能士「電子機器組立て」3級・2級を学び、電子機器製品製造の基本を習得する。	川崎重工株式会社
ロボット技術	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	1. 産業用ロボットに関する安全の知識を習得する 2. 産業用ロボットの基礎知識を習得する 3. duAroを使用し、教示等の作業における基礎知識を習得する 4. K-ROSETを使用し、オフラインティーチングの基礎知識を習得する	カワサキロボットサービス株式会社
ソフトウェアⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	インターネットを利用して世界中のWebサイトから情報を交換するIT化の時代において、Webコンテンツを作成・情報を発信することはプログラマだけでなく、通常業務を行う社会人にとっても必要とされる技術となった。本科目ではWebコンテンツ(ホームページ等)を作成するHTMLやCSSについて学ぶ。	ユニテックシステム株式会社
ドローン	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ドローンは、空の産業革命と言われるほど、世界に新しいビジネスアイデアを生み出しています。自在の飛行によるリアルな空撮映像、工場や施設など人が入れない場所での調査や監視、商用利用の範囲は広がりが続いています。利用範囲の拡大とともに注目されるのが安全性です。衝突や墜落の危険性、飛行禁止エリアの認知など、商用利用には様々なリスクも存在します。本授業では、ドローン操縦に必要な知識、技能および安全管理の基礎技術を習得を目的とする。	株式会社AIRロボ

2.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係																									
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 現在担当している教育又は将来担当する教育に関する知識、技術、技能の習得・向上や授業改善、学生指導などに関する研修を組織的に行い教員の資質の向上を図る。																									
(2)研修等の実績																									
①専攻分野における実務に関する研修等																									
研修名: ロボット講習会 期間: 令和5年5月15日～19日 内容: duAro操作法	連携企業等: カワサキロボットサービス株式会社 対象: ロボット教育担当教員																								
研修名: 無人航空機操縦者講習会 期間: 令和5年9月2日、10日、24日 内容: 無人航空機操縦者実技試験	連携企業等: AIRロボ 対象: ドローン教育担当教員																								
②指導力の修得・向上のための研修等																									
研修名: 困った学生事情と対応の共有 期間: 令和5年9月16日 内容: 全員が現在・過去を含め困った学生の事について共有し、今後の学生対応に役立てる。	連携企業等: 学生支援課 対象: 全教職員																								
研修名: 教育のICT化 期間: 令和5年9月16日 内容: Teamsワークショップ	連携企業等: 航空整備科教員 対象: 全教員																								
研修名: FDSD研修会 発達障害学生支援 期間: 令和5年12月26日 内容: 障害者差別解消法の改正を見据えて	連携企業等: 岐阜大学保健管理センター 対象: 教員																								
(3)研修等の計画																									
①専攻分野における実務に関する研修等																									
研修名: ロボット講習会 期間: 令和6年5月13日～24日、10月21日～25日 内容: duAro操作法 RS007操作法	連携企業等: カワサキロボットサービス株式会社 対象: ロボット教育担当教員																								
研修名: 岐阜県ドローンビジネス推進研究会 第1回セミナー 期間: 令和6年8月2日 内容: 能登半島地震におけるドローンの運用調整及び今後の展望他	連携企業等: VRテクノセンター 対象: 教員																								
研修名: 無人航空機操縦者講習会 期間: 令和6年10月以降 内容: 無人航空機操縦者実技試験	連携企業等: AIRロボ 対象: ドローン教育担当教員																								
②指導力の修得・向上のための研修等																									
研修名: SD研修 期間: 令和6年12月21日 内容: 学生のメンタルヘルス対策	連携企業等: 岐阜医療科学大学 教員 対象: 全教職員																								
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
(1)学校関係者評価の基本方針																									
実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、個別に取り組み状況を説明し、聞き取り調査を行い活かす。																									
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応																									
<table><tr><th>ガイドラインの評価項目</th><th>学校が設定する評価項目</th></tr><tr><td>(1)教育理念・目標</td><td>教育理念・目的・人材育成</td></tr><tr><td>(2)学校運営</td><td>学校運営</td></tr><tr><td>(3)教育活動</td><td>教育活動</td></tr><tr><td>(4)学修成果</td><td>学修成果</td></tr><tr><td>(5)学生支援</td><td>学生支援</td></tr><tr><td>(6)教育環境</td><td>教育環境</td></tr><tr><td>(7)学生の受入れ募集</td><td>学生の受入れ募集</td></tr><tr><td>(8)財務</td><td>財務</td></tr><tr><td>(9)法令等の遵守</td><td>法令等の遵守</td></tr><tr><td>(10)社会貢献・地域貢献</td><td>社会貢献・地域貢献</td></tr><tr><td>(11)国際交流</td><td>国際交流</td></tr></table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成	(2)学校運営	学校運営	(3)教育活動	教育活動	(4)学修成果	学修成果	(5)学生支援	学生支援	(6)教育環境	教育環境	(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集	(8)財務	財務	(9)法令等の遵守	法令等の遵守	(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献	(11)国際交流	国際交流	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成																								
(2)学校運営	学校運営																								
(3)教育活動	教育活動																								
(4)学修成果	学修成果																								
(5)学生支援	学生支援																								
(6)教育環境	教育環境																								
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集																								
(8)財務	財務																								
(9)法令等の遵守	法令等の遵守																								
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献																								
(11)国際交流	国際交流																								
※(10)及び(11)については任意記載。																									
(3)学校関係者評価結果の活用状況																									
教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、学校運営が適正に行われているかを評価いただき、各委員の意見、見識を伺い、今後の学校運営に反映させている。																									
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿																									
令和6年5月1日現在																									
<table><tr><th>名 前</th><th>所 属</th><th>任期</th><th>種別</th></tr><tr><td>吉田 保夫</td><td>公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>企業等委員</td></tr><tr><td>河野 邦宏</td><td>中日本航空専門学校 教育後援会 会長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>保護者</td></tr><tr><td>久保 祐一</td><td>田原みらいづくり協議会 代表</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>地域住民</td></tr><tr><td>横山 実</td><td>中日本航空専門学校 航友会 会長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>卒業生</td></tr><tr><td>堀 秀樹</td><td>岐阜県立岐阜工業高等学校 校長</td><td>令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)</td><td>高等学校校長</td></tr></table>	名 前	所 属	任期	種別	吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	企業等委員	河野 邦宏	中日本航空専門学校 教育後援会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	保護者	久保 祐一	田原みらいづくり協議会 代表	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	地域住民	横山 実	中日本航空専門学校 航友会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	卒業生	堀 秀樹	岐阜県立岐阜工業高等学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	高等学校校長	
名 前	所 属	任期	種別																						
吉田 保夫	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	企業等委員																						
河野 邦宏	中日本航空専門学校 教育後援会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	保護者																						
久保 祐一	田原みらいづくり協議会 代表	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	地域住民																						
横山 実	中日本航空専門学校 航友会 会長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	卒業生																						
堀 秀樹	岐阜県立岐阜工業高等学校 校長	令和6年7月1日～令和7年6月30日(1年)	高等学校校長																						
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等																									
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期																									
URL:	https://www.cna.ac.jp/information/																								
公表時期:	ホームページにて毎年10月ごろ公表																								

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係																									
(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針																									
教育及び学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について自己評価を行うとともに、保護者、地域住民、関連団体等により構成された委員による学校関係者評価委員会において公表し、自己評価について客観性・納得性を高める。																									
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応																									
<table><thead><tr><th>ガイドラインの項目</th><th>学校が設定する項目</th></tr></thead><tbody><tr><td>(1)学校の概要、目標及び計画</td><td>教育理念・目的・人材育成</td></tr><tr><td>(2)各学科等の教育</td><td>教育活動・教育環境</td></tr><tr><td>(3)教職員</td><td>学校運営・教育活動</td></tr><tr><td>(4)キャリア教育・実践的職業教育</td><td>学修成果</td></tr><tr><td>(5)様々な教育活動・教育環境</td><td>教育活動・教育環境</td></tr><tr><td>(6)学生の生活支援</td><td>学生支援</td></tr><tr><td>(7)学生納付金・修学支援</td><td>学生支援・学生の受入れ募集</td></tr><tr><td>(8)学校の財務</td><td>財務</td></tr><tr><td>(9)学校評価</td><td>法令等の遵守・学校関係者評価報告</td></tr><tr><td>(10)国際連携の状況</td><td>国際交流</td></tr><tr><td>(11)その他</td><td>法令等の遵守・社会貢献・地域貢献</td></tr></tbody></table>	ガイドラインの項目	学校が設定する項目	(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・人材育成	(2)各学科等の教育	教育活動・教育環境	(3)教職員	学校運営・教育活動	(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果	(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境	(6)学生の生活支援	学生支援	(7)学生納付金・修学支援	学生支援・学生の受入れ募集	(8)学校の財務	財務	(9)学校評価	法令等の遵守・学校関係者評価報告	(10)国際連携の状況	国際交流	(11)その他	法令等の遵守・社会貢献・地域貢献	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目																								
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・人材育成																								
(2)各学科等の教育	教育活動・教育環境																								
(3)教職員	学校運営・教育活動																								
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果																								
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境																								
(6)学生の生活支援	学生支援																								
(7)学生納付金・修学支援	学生支援・学生の受入れ募集																								
(8)学校の財務	財務																								
(9)学校評価	法令等の遵守・学校関係者評価報告																								
(10)国際連携の状況	国際交流																								
(11)その他	法令等の遵守・社会貢献・地域貢献																								
※(10)及び(11)については任意記載。																									
(3)情報提供方法																									
URL:	https://www.cna.ac.jp/information/																								
公表時期:	ホームページにて毎年10月ごろ公表																								

授業科目等の概要

(工業専門課程 航空整備科航空電子コース) 令和6年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			人間学Ⅰ	学生一人一人が教育理念を理解し、目標に向かって大切な時間を過ごしていくために心掛けて欲しい以下のことについて、講義、グループディスカッション、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。1. 勉学の前に身につけるべき習慣や守らなければならない事項2. 豊かな人間性とはどのようなものかについて	1通	20	1	○			○		○			
○			英検演習Ⅰー1	英検合格に必要な英語力が付けられるよう、基礎的な文法を再確認し、練習問題、過去問、小テスト等で、資格取得を目指す。	1前	30	1	○			○			○		
○			英検演習Ⅰー2	英検合格に必要な英語力が付けられるよう、基礎的な文法を再確認し、練習問題、過去問、小テスト等で、資格取得を目指す。	1後	30	1	○			○			○		
○			航空法規等Ⅰ	航空従事者として、知っておかなければならない航空に関する「国際条約、国内法」の一部について習得する。	1前	60	4	○			○		○			
○			航空力学Ⅰ	航空電子技術者として必要な流体力学の基礎、航空機の飛行原理および空力特性等の航空力学の基礎知識を習得する。	1前	28	1	○			○		○			
○			機体Ⅰ	航空技術者として必要な航空機の構造、各系統及び構成品、材料力学の基礎、航空機に使用されている材料の種類、材料試験及び検査の基礎知識を習得する。	1前	89	5	○			○		○			
○			電子装備品等ⅠA	航空機には電気電子機器が多く使用されており、これらを理解するために、電気・電子の基礎及び航空機の電気部品・装備品の原理・構造・機能について学ぶ。	1通	120	8	○			○		○	○		
○			電子装備品等ⅠB	航空機の中樞神経の役割を果たす航空計器及び電子装備品(通信、航法、監視等)の構造、機能、指示原理を学ぶ。	1通	120	8	○			○		○			
○			電気工学Ⅰ	電子コースにおける専門基礎のひとつである電気工学を、講義と演習で構成するプログラム学習により習得する。本科目では、直流編、磁気・静電気編について詳細な説明を行う。また、電子機器、制御系の具体例の把握、実験実習等との関連を重視し、電気工学基礎の実践的学習を進める。	1後	60	4	○			○		○			
○			デジタル電子回路	航空電子機器携わる者にとってデジタル技術の役割やその概念を理解することは必須である。本授業では、デジタル基本論理、N進数変換、組み合わせ回路、回路設計に必要な各種定理などの基礎技術を座学と演習課題により習得する。	1後	30	2	○			○		○			
○			情報処理システムⅠ	現代情報化社会ではパソコンがあらゆる局面で使用されており、情報を活用するスキルは必須となっている。本科目では、コンピュータ技術を「情報を活用する」という観点から、社会人として必要な基礎知識を習得する。	1後	60	4	○			○		○	○		
○			基本実習Ⅰ	航空の安全確保に立脚した航空技術者として、日常の仕事の基礎となる航空整備に関わる基本技術の知識、技能について学び、取得する。	1通	176	4			○	○		○			
○			電気計測実習	電気、電子技術者としての基本的な知識となる電気計測の目的と重要性を認識すると共に、電気計測機器を使用する際の取扱い上の留意事項ならびに安全作業に必要な知識を習得する。	1後	60	1			○	○			○		
○			人間学Ⅱ	自分のキャリアデザインを実現するために必要な自己分析や企業研究等の方法、考え方を講義、グループディスカッション、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。	2通	20	1	○			○		○			
○			スキルアップセミナーⅠ	就職活動が本格的にスタートするまでに習得しておくべき就職活動への取り組み方から就活基礎力(履歴書作成、面接等の能力)について企業側の観点などを学ぶ。	2通	50	3	○			○		○			
○			英検演習Ⅱー1	英検合格に必要な英語力の定着のため、基礎的な文法や語彙の確認と過去問題で実践演習をする。	2前	30	1	○			○			○		
○			実用英会話Ⅰ	実践的な英語の語彙力、スピーキング力、リスニング力を向上させ、日常会話、旅行、ビジネスの場等、様々なシチュエーションに対応する英語表現を習得し、英語でのコミュニケーション能力を身につける。	2後	30	2	○			○			○		
○			航空技術英語	航空整備士、航空技術者にとって必要な英文ベンダー・マニュアルの読解力を養うとともに、その構成基準を理解し、更に航空機への知識、経験を積むことにより航空機整備に必要な技量向上を目指す。	2通	60	4	○			○		○			
○			電気工学Ⅱ	航空電子コースにおける専門基礎のひとつである電気工学(交流)を、講義と演習で構成するプログラム学習により習得する。	2前	30	2	○			○		○			

(工業専門課程 航空整備科航空電子コース) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電子回路技術	航空分野に限らず広く活用されている電子回路について、アナログ回路・デジタル回路を構成する基本電子部品の構造・特性動作原理を交えて、基本技術を習得する。又、本スキルを評価するデジタル技術検定試験3級以上の資格取得を目標とする。	2通	60	4	○			○		○		
○			マイコン技術Ⅰ	航空電子機器に携わる技術者にとって必須であるマイコンのプログラミングに関し、実習を通して習得する。又、本スキルを評価するデジタル技術検定試験3級以上の資格取得を目標とする。	2通	120	8	○			○		○	○	
○			航空級無線通信士基礎	無線工学・電波法の基礎知識取得及び航空無線通信士資格取得に向けた英語対策	2前	20	1	○			○			○	
○			情報処理システムⅡ	現代情報化社会ではパソコンがあらゆる局面で使用されており、情報を活用するスキルは必須となっている。本科目では、情報システムⅠから更にステップアップし、企業人として必要となる基礎知識を習得させる。又、本スキルを評価するITパスポートの資格取得を目標に授業を進める。	2前	60	4	○			○			○	
○			ソフトウェアⅠ	ヒューマノイドロボット「pepper」を用いて、アルゴリズムを考え、プログラミングを行い、実際に動作させてプログラミングの基礎を習得する。また、論理思考演習を適宜行いプログラミングに必要なロジカルシンキング能力を高める。	2後	30	2	○			○		○	○	
○			シーケンス技術Ⅰ	①シーケンス制御の基礎を学び、PLCを使ったプログラミング(ラダー言語)の方法や配線方法について理解する②技能検定で使用するベルトコンベア試験盤の利用方法を理解する。③国家技能検定(シーケンス作業:3級)の課題に挑戦し、合格を目指す。	2通	120	3			○	○		○		
○			加工実習	前期は、「電子機器組立て」3級の実技試験課題を製作し、電子機器製品製造の基本を習得する。後期は、安全教育(KY活動)またNC工作機械の概要を理解し、NC5軸加工機の工作プログラミングを習得する。	2通	120	3			○	○		○	○	
○			アビオニクス実習Ⅰ	1年時に学んだ電子装備品ⅠA及び電子装備品ⅠBでの学習内容を実機(B777CBTとFlight Simulatorを含む)の当該系統に結び付けて理解させることにより下記の基礎知識を定着させる。①各系統の概要、目的、主要部品の構成②主要部品の取り付け位置③各系統の機能及び作動と操作	2通	120	3			○	○		○	○	
○			電子機器CAD実習Ⅰ	近年産業界ではCADを導入する企業が増加しており、業務上で必要とされる技術・技能となっている。その要望にこたえる人材を育成すべく、機械図面・電気電子関係図面を2次元CAD(AutoCAD)を用いて、正確かつ迅速に作図する技術を習得する。	2通	60	1			○	○			○	
○			航空機実習Ⅰ	航空電子技術者として必要な、航空機に使われている各系統について知見を得る。1. 航空機取り扱い2. 飛行機操縦系統3. 空調・与圧系統	2通	100	2			○	○		○		
○			人間学Ⅲ	社会人として必要な基礎知識、ルール、マナーおよび求められる基礎力について、講義、講演会、奉仕活動などを通して学ぶ。	3通	20	1	○			○		○		
○			スキルアップセミナーⅡ	会社で働くためには、基礎学力(読み、書き、計算、ITスキル)や専門知識(仕事に必要な知識、資格)以外に、社会人としての基礎力(仕事をする上で必要となる自主性、問題解決能力、チームワーク力等)が必要となります。ここでは、卒業までに習得すべき社会人としての基礎力について企業側の観点から教育する。	3前	30	2	○			○		○		
○			実用英会話Ⅱ	実践的な英語の語彙力、スピーキング力、リスニング力を向上させ、日常会話、旅行、ビジネスの場等、様々なシチュエーションに対応する英語表現を習得し、英語でのコミュニケーション能力を身につける。	3通	60	4	○			○			○	
○			電気・電子基礎CAD	企業では近年、設計製造3次元CADを用いての設計や生産技術業務を遂行できる人材が求められている。よって、生産・加工現場で主流となっている3次元設計に取り組み、3次元CADを用いた設計基礎能力を習得し、これと共に3D PRINTERの実務に対応できる基礎能力を習得する。	3前	30	2	○			○			○	○
○			マイコン技術Ⅱ	マイコン技術Ⅰに引き続き、航空電子機器に携わる者にとって必須の技術であるマイコン関連のハード&ソフトに関し、実習を通してより深く習得する。	3通	120	8	○			○		○		
○			ソフトウェアⅡ	インターネットを利用して世界中のWebサイトから情報を交換するIT化の時代において、Webコンテンツを作成・情報を発信することはプログラマだけでなく、通常業務を行う社会人にとっても必要とされる技術となった。本科目ではWebコンテンツ(ホームページ等)を作成するHTMLやCSSについて学ぶ。	3前	60	4	○			○		○	○	○

(工業専門課程 航空整備科航空電子コース) 令和6年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ロボット技術	1. 産業用ロボットに関する安全の知識を習得する 2. 産業用ロボットの基礎知識を習得する 3. duAroを使用し、教示等の作業における基礎知識を習得する 4. K-ROSETを使用し、オフラインティーチングの基礎知識を習得する	3前	60	4	○			○		○	○	○
○			アビオニクス実習Ⅱ	航空機において、現在無くてはならないアビオニクス機器の理解と大型機のシステムの理解を目的とします。アビオニクス関連機材の実習教育により電子・アビオニクスシステムの基礎知識を習得します。大型機システムトレーナーや航空機フライトシミュレータでのシステム実習も行います。	3通	120	3			○	○		○	○	
○			電子機器CAD実習Ⅱ	近年、設計製造企業では3次元CADを用いて、設計業務や生産技術業務を遂行できる人材が求められている。よって、現在生産・加工現場で主流となっている3次元設計に取り組み企業の実務に対応できる3次元CADを用いた設計能力を習得する。	3前	60	1			○	○			○	○
○			航空機実習Ⅱ	航空電子技術者として必要な、航空機に使われている各系統について知見を得る。 1. ヘリコプター 2. 防除氷系統 3. エンジン	3通	80	2			○	○		○		
	○		航空級無線通信士	航空無線通信士の資格取得に向けた無線工学、電波法及び英語の知識を習得する。	3通	120	8	○			○			○	
	○		電子機器組み立て	国家技能士「電子機器組立て」3級・2級を学び、電子機器製品製造の基本を習得する。	3通	120	8	○			○			○	○
	○		ドローン	ドローンは、空の産業革命と言われるほど、世界に新しいビジネスアイデアを生み出しています。自在の飛行によるリアルな空撮映像、工場や施設など人が入れない場所での調査や監視、商用利用の範囲は広がりに続いています。利用範囲の拡大とともに注目されるのが安全性です。衝突や墜落の危険性、飛行禁止エリアの認知など、商用利用には様々なリスクも存在します。本授業では、ドローン操縦に必要な知識、技能および安全管理の基礎技術を習得を目的とする。	3通	120	8	○			○				○
	○		シーケンス技術Ⅱ	シーケンス技術Ⅰの内容を発展させ、リレー及びPLCをベースにした技術を習得する。上期は国家技能検定「機械保全(電気系保全作業)」の、下期は国家技能検定「電気機器組立(シーケンス制御作業)」の過去問題/類似問題を中心に実技ベースで学習し、それぞれ国家技能検定試験の合格を目指す。	3通	120	8	○			○			○	
○			卒業(課題)研究	航空電子コース3年間の集大成として、以下の3項目を目標とした卒業研究を実施する。 (1) 在学期間中に得た知識の集大成 (2) 取得技術に対する応用力 (3) 技術者としての自立心の育成	3通	180	4			○	○		○		
					44 科目		2853 時数								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件: 全課程の修了に必要な総授業時数2,413時間		1学年の学区区分	2期
履修方法: 評価基準は、100～80点を優、79点～70点を良、69点～60点を可、60点未満を不可とし、優良可を合格とし、不可を不合格とする。評価方法は、筆記試験または、レポート、実技試験、成果物等により行う		1学期の授業期間	15週